

★毎年の研究発表

目的 ①村山学園の研究の成果を発信する。
②経験を通して、教員の育成を図る。

対象 全教員

やりながら教える



★スキルアップ研修

目的 校種等に関わらず、若手教員相互の意見交換や検討を通して、教員としての視野を広げる。

対象 若手教員

開催 月2回程度

やらせてみる



★OJT組織

やりながら教える

目的 東京都教育委員会のOJTガイドラインを参考に、ベテランの教員が日々の仕事を通して、経験の浅い教員を指導するOJT組織を運用し、人材育成に努める。

OJT アンケート

学年 教科	分量 委員会 氏名	自己評価	希望する研修内容	希望する OJT担当者
学習指導力				
生活指導力 進路指導力				
外部との 連携・折衝力				
学校運営力 組織貢献力				

A=充実期 B=充実期相当 C=伸長期相当 D=基礎形成期相当

OJT計画表

職名	氏名	学年	OJT対象者				OJT担当者					
			学習	生活 進路	外部	学校 運営	学習	生活 進路	外部	学校 運営		
3 主幹教諭	C	25	J		d	l b e f g i	J	B				
4 主幹教諭	D	27	G H	l b	e	i	l a b d e g	B				
5 主任教諭	E	32	F I	e e	l f g h i	d e h	h	B				
6 教諭	f	4						H	校長	E H	C	B
7 教諭	k	3			c h			J	i	E H	C	D
8 教諭	h	2						E	f c	B E	B E	B E
9 教諭	i	1						H	i	E	C	D

主幹教諭 D 氏名 氏名 氏名

OJT責任者	GH	希望する研修内容
学習	l b	言語能力の向上を重視した授業づくり(1) 教材・資料の活用(2) 主体的な学習態度(3)
生活 進路	e	生活指導・進路指導上の課題を発見し解決する力を身に付ける研修(4) 保護者・地域とのコミュニケーションの取組み(5) 校内研修の充実についての具体的な研修(6) 上級や同僚とのコミュニケーションの取組み(7) 校内において、生涯・生涯(8) 1) 研修を企画・実施する研修(9) 2) 研修が実施された際の振り返り(10) 3) 研修の成果を校内で共有する研修(11) 4) 研修の成果を外部に発信する研修(12) 5) 研修の成果を外部に発信する研修(13) 6) 研修の成果を外部に発信する研修(14) 7) 研修の成果を外部に発信する研修(15) 8) 研修の成果を外部に発信する研修(16) 9) 研修の成果を外部に発信する研修(17) 10) 研修の成果を外部に発信する研修(18)
学校 運営	l a b d e g	

平成28年度版

村山学園の人材育成

◆ 東京都の公立学校の教員として

東京都の教育に求められる教師像

<p>教育に対する熱意と使命感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供に対する深い愛情 ・ 高い倫理観と社会的常識 	<p>豊かな人間性と思いやり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい心、柔軟な発想や思考 ・ 幅広いコミュニケーション能力
<p>子供のよさや可能性を引き出し伸ばす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人のよさや可能性を見抜く力 	<p>組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より高い目標にチャレンジする意欲 ・ 若手教員を育てる力

教員に求められる基本的な4つの力



学 習 指 導 力	生 活 指 導 力 進 路 指 導 力	外 部 と の 連 携 ・ 折 衝 力	学 校 運 営 力 組 織 貢 献 力
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業をデザインする力 ○ ねらいに沿って学習を進める力 ○ 児童・生徒の興味を引き出し、個に応じた指導をする力 ○ 主体的な学習を促すことができる力 ○ 学習状況を適切に評価し、授業を進める力 ○ 授業を振り返り改善する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒と良好な関係を構築する力 ○ 児童・生徒の思いを理解し、適切に指導する力 ○ 児童・生徒の個性や能力の伸長並びに健全な心身及び社会性の育成を通して自己実現を図らせる力 ○ 自校の生活指導・進路指導上の課題を発見し解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域・外部機関に適切に対応する力 ○ 課題に応じ保護者・地域・外部機関と連携をとり解決に向けて取り組む力 ○ 保護者・地域・外部機関との協働の下、自校の教育の向上を図る力 ○ 学校からの情報発信や広報、保護者・地域・外部機関からの情報収集を適切に行う力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務において企画・立案する力 ○ 上司や同僚とコミュニケーションをとりながら、円滑に校務を遂行する力 ○ 組織の一員として校務に積極的に参画する力 ○ 校務の問題点を把握し改善する力

◆ これまでの成果と今後の課題

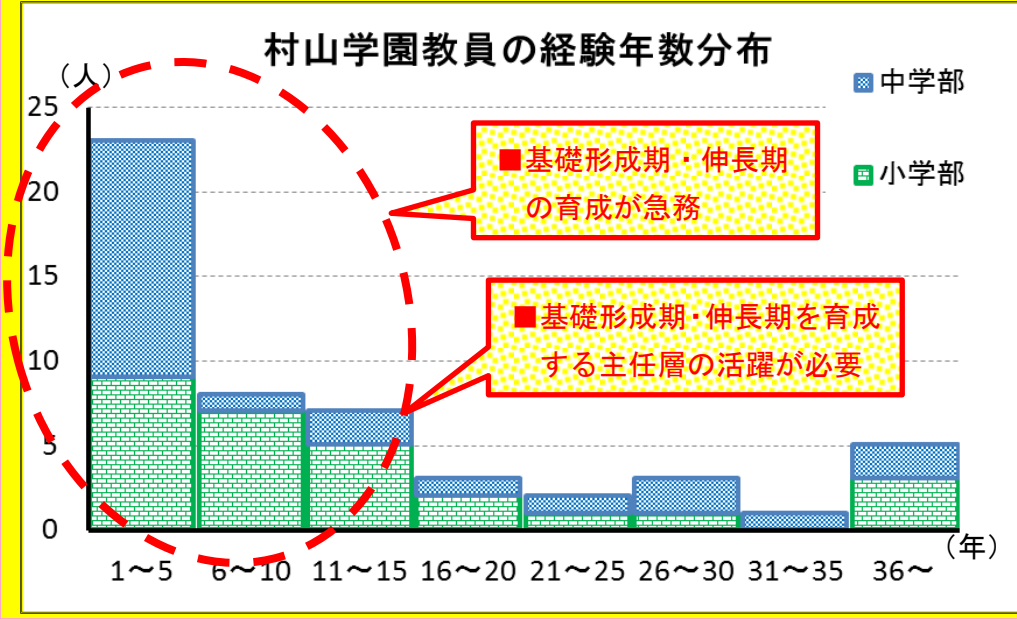
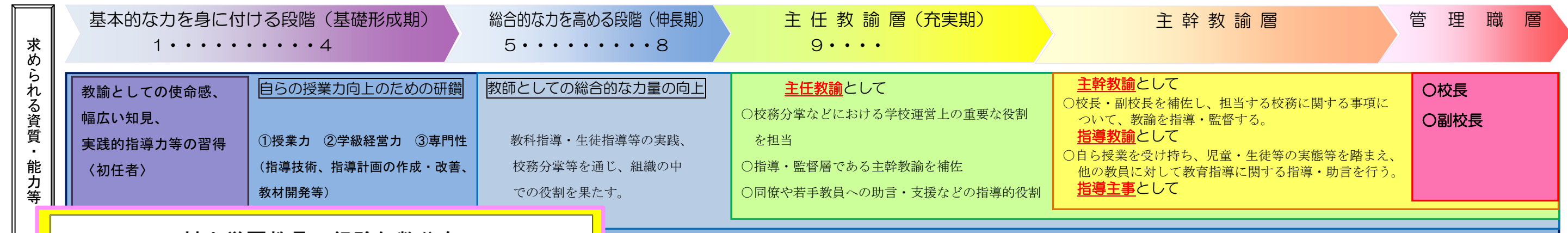
【成果】

- ◇ 基礎形成期である3年目頃から、分掌上の重要な役割を担ったり、新たな企画を考えて校長に具申したりする教員が増えしてきた。
- ◇ ベテラン教員が培ってきた知識や技能を、様々な場面で若手教員に教えることで、ベテラン教員が活躍する場面が増えた。
- ◇ 教員のライフプランとして、管理職を目指す若手教員が増加した。
- ◇ 若手教員が、後輩の育成を自らの職務として捉え、主体的に研鑽に励む場面が多くなった。

【課題】

- ◇ 人材育成の仕組みとしては、大きな成果を得る様々な手だてを講じている。将来、若手教員が一層増加することが予想され、研修内容の系統性や研修時間を生み出すこと等、運用面の充実を図っていくことが今後の課題である。

◆ 各職層と育成に向けた手だて



★村学スタイル **教える**

目的 児童・生徒が「できた」「分かった」と実感できる授業を、全ての教員が全ての教科等で実践できるようにする。
対象 全教員

- ① 始めのあいさつ (授業にむかひの気持ち)
- ② 「目標」「めあて」の明確化 (「何ができてほしいものか」)
- ③ 「めあて」「目標」の明確化 (「何ができてほしいものか」)
- ④ 多様な「言語活動」 (多様な「言語活動」)
- ⑤ 自己肯定感・達成感 (達成感を確信する自己評価)
- ⑥ 終わりのあいさつ (振り返り)
- ⑦ 振り返りのあいさつ (振り返り)

★全文書決裁 **やりながら教える**

目的 ①若手教員が主体的に教材や分掌上の提案文書を作成し、それを主幹教諭、主任教諭等から指導を受けることができる。
②主幹教諭、主任教諭等が、若手教員が作成した文書等の決裁を通して、指導の機会をもつことができる。
③小中学部の両方が話し合っ提案文書等を作成することから、教員が9年間を見通した視点で考えられるようになる。
対象 全教員 (校務に関わる全ての文書について、校長決裁を受けることが原則)

★公開講座 村学塾 (基礎形成期 ⇒ 伸長期)

目的 ①主任教諭や分掌主任、学校運営のリーダーになるために必要な資質を身に付ける。
②学級経営や学年経営等、教科指導以外の様々な課題解決のヒントを得たりする。
対象 若手教員～学校運営のリーダーを目指す教員
開催 月1回程度
講師 校内教職員 (校長・副校長・主幹教諭・主任教諭・ベテラン及び中堅の教諭等)
他校教職員 (校長・副校長・主幹教諭等)
教育委員会 (学校教育担当部長・指導主事等)

★実学塾 (基礎形成期) **教える**

目的 学級経営や学校運営、教師としての心構え等、教師としての基礎・基本を身に付ける。
対象 若手教員
開催 月1回程度
講師 学校運営協議会委員 (元小学校長)

★校長より **教える**

目的 校長の経営方針や組織人としての考え方、社会人としての接遇・マナー等を、全ての教職員に具体的に伝え、育成する。
対象 全教職員
発行 随時